

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム  
(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成) 選定事業

# 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

# キックオフシンポジウム

*Kick off Symposium*

開催日  
会場

2015

2/13

FRI

於：岡山大学歯学部第1講義室

開催日  
会場

2015

2/14

SAT

於：岡山大学五十周年記念館

- ◆連携大学：北海道大学、金沢大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学
- ◆協力施設：東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学死生学・応用倫理センター、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センター
- ◆主催：国立大学法人岡山大学(学長:森田 潔)、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(研究科長:谷本光音)、岡山大学病院(病院長:横野博史)、岡山大学歯学部(歯学部長:窪木拓男)

本講演ならびにシンポジウムは、平成26年度文部科学省大学改革推進等補助金(事業名:健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—)により実施されます。



## ご挨拶



### 窪木 拓男

事業責任者・岡山大学歯学部長

### 超高齢社会に歯学教育を如何に適応させるか

歯科医療が超高齢社会に適応し、国民の期待に応える必要があることは自明である。なぜなら、口腔は呼吸や摂食機能を介して命をつなぎ、尊厳や喜びを維持しながら生活を送るために必須の器官であり、この器官の感染や機能不全は生命の危機や生活の質の低下に直結するからである。これだけ超高齢社会において歯科医療の重要性が叫ばれているにもかかわらず、口腔からの感染を防ぎ、口腔機能を維持することが、病床に伏した有病者や要介護者に必須な医療要素であるというイメージを歯科医療関係者が十分共有できないでいるのは、歯学教育を担う我々の責任と言わざるを得ないのではないか。

医療はますます生活や福祉との境界を曖昧にしている。もしも、我々が在宅歯科診療を教育に真面目に含めるのであれば、在宅現場における高頻度の疾患（認知症、がん、誤嚥性肺炎、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、低栄養等）の知識はもちろん、摂食嚥下リハビリテーションや食形態、医療保険や介護保険制度に関わる行政法規や倫理規律、多職種との連携、地域包括ケア、死生学や Advance Care Planning、患者の体位変換や車いすへの移乗、高齢者が住みやすい住居への改装支援、生活・介護支援等、幅広い知識を教育する必要がある。また、人生のステージや全身状況に応じた口腔内の補綴装置等の整理の方法に関する議論や、認知症と診断されたら歯科に受診いただく運動も緒についたばかりである。一方、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防の可能性が認識されつつあり、超高齢社会において歯科への期待は高まるばかりである。

このようなタイミングで、本事業が文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（事業名：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革）に採択されたことは大変光栄である。本事業は、岡山大学を申請担当大学とした計 11 大学（北海道大学、金沢大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学）に、東京大学 死生学・倫理応用センター、東京大学高齢社会総合研究機構、国立長寿医療研究センター、東京都健康長寿医療センターを合わせた歯学教育改革コンソーシアム（平成 26 年 9 月 26 日設立）を中心に、健康長寿社会を担う歯科医師を育てるための文理融合、医科・歯科連携、多職種連携教育改革を実現しようとするものである。

お忙しい中、本キックオフシンポジウムでお話しを頂く、文部科学省医学教育課 島居剛志課長補佐、東京大学死生学・応用倫理センター 会田薫子准教授をはじめ、全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議 野口 誠会長、丹沢秀樹事務局長、兵庫県病院歯科医会足立了平会長、さらには多数お集まり頂いた連携大学および協力施設の先生方に心より感謝を申しあげます。これから起こる歯学教育改革が実り多いものになりますよう、皆様のご尽力を御願ひして、本シンポジウム開催のご挨拶とさせていただきます。

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム  
 (健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成) 選定事業

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革  
 —死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—  
 キックオフシンポジウム

## プログラム

■日 時：平成 27 年 2 月 13 日 (金)・14 日 (土)

■場 所：平成 27 年 2 月 13 日 (金) 岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室  
 平成 27 年 2 月 14 日 (土) 岡山大学創立五十周年記念館

### 2015 年 2 月 13 日 (金)

15:00 ~ 18:30 第1日目(岡山大学歯学部棟4F 第一講義室)

14:30 ~ 15:00 シンポジウム・懇親会受付

15:00 ~ 15:10 事業責任者ご挨拶

15:10 ~ 16:40 シンポジウム

#### 医学部歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実にもむけて

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後臨床研修センター歯科研修部門長, 岡山大学病院総合歯科)

##### 1. 医学部歯科口腔外科における歯科医師卒後研修の現状

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議会長  
 富山大学大学院医学薬学研究部先端生命医療学域分子病態医学系歯科口腔外科学講座  
 野口 誠 教授

##### 2. 兵庫医科大学病院歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラム～兵庫県病院歯科医会での活動も含めて～

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座  
 岸本 裕充 主任教授

##### 指定発言

##### 兵庫県病院歯科医会がめざす歯科医師臨床研修

兵庫県病院歯科医会会長  
 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科

足立 了平 教授

##### 3. 金沢大学附属病院における歯科臨床研修医教育の現状について

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野(歯科口腔外科)

川尻 秀一 教授

#### 4. 歯学部学生教育ならびに歯科医師卒後研修に関する一考察

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議事務局

中央社会保険医療協議会専門委員

日本口腔科学会(日本医学会第31分科会)理事長

日本学術会議会員

千葉大学大学院医学研究院先端がん治療学研究講座口腔科学分野

丹沢 秀樹 教授

#### パネルディスカッション

16:40 ~ 17:00 休憩・懇親会受付

17:00 ~ 17:45 **講演 1**

座長: 川尻 秀一 教授 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野 (歯科口腔外科))

「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践  
できる歯科医療人を養成する

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

岸本 裕充 主任教授

17:45 ~ 18:30 **講演 2**

座長: 飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副院長, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔再建外科学分野)

金沢大医学部における歯学教育プログラム—特色および具体的な取り組み—

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野 (歯科口腔外科)

中村 博幸 准教授

18:30 ~ 19:00 懇親会受付

19:00 ~ 懇親会 岡山大学病院 フードコート (会費 5,000 円)

## 2015年2月14日(土)

10:00 ~ 16:30 第2日目(岡山大学創立五十周年記念館)

10:00 ~ 10:10 事業責任者ご挨拶

10:10 ~ 10:40 基調講演

座長: 脇坂 聡 教授 (大阪大学歯学部, 大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻)

窪木 拓男 教授 (岡山大学歯学部, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野)

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定大学に期待すること

文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐

島居 剛志 様

休憩

10:50 ~ 11:50 特別講演

座長: 高橋 一郎 教授 (九州大学歯学研究院副院長, 歯学部口腔保健推進学講座)

森田 学 教授 (岡山大学歯学部副部長, 教務委員長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野)

長寿時代のエンドオブライフ・ケア

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座

会田 薫子 特任准教授

昼休憩

13:00 ~ 13:45 講演 3

座長: 平野 浩彦 先生 (東京都健康長寿医療センター研究所専門副部長)

歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法学  
演習例の紹介

日本大学歯学部摂食機能療法学講座

植田 耕一郎 教授

13:45 ~ 14:30 講演 4

座長: 横山 敦郎 教授 (北海道大学歯学部, 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能補綴学教室)

北海道大学における歯科医学教育

北海道大学大学院歯学研究科臨床教育部門

井上 哲 教授

休憩

14:45 ~ 15:30 講演 5

座長: 中山 浩次 教授 (長崎大学歯学部, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔病原微生物学)

長崎大学における離島医療保健実習から何を学ぶか?

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教育研究支援センター総合歯科臨床教育学

角 忠輝 教授

15:30 ~ 16:15 **講演 6**

座長：松口 徹也 教授 (鹿児島大学歯学部長, 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻発生発達教育学講座)

### 離島地域を基盤とした地域歯科医療教育の開発

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻社会・行動医学講座歯科医学教育実践学分野

田口 則宏 教授

16:15 ~ 16:30 閉会の辞, 次回連携シンポジウム開催担当校ご挨拶 (昭和大学)

平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:10 ~ 16:40

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

## シンポジウム

医学部歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実にむけて

座長：鳥井 康弘 教授 (岡山大学病院卒後臨床研修センター歯科研修部門長, 岡山大学病院総合歯科)



### 1. 医学部歯科口腔外科における歯科卒後研修の現状

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議会長  
富山大学大学院医学薬学研究部先端生命医療学域分子病態医学系歯科口腔外科学講座

野口 誠 教授

## 講演概要

医学部附属病院における歯科卒後研修の特色は、まさに医科歯科連携教育にあると言える。

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議は、全国の大学医学部附属病院 61 施設 (国立 32, 公立 7, 私立 22) の歯科口腔外科科長により構成されている。本会で収集している資料に基づき、卒後研修の現状分析を行ったので報告する。

#### 1. 研修医の受け入れ状況

一施設あたりの募集定員は 2-12 名 (平均 5.1 名; 単独型, 複合型を含む)

マッチ者数は 0-10 名 (平均 4.3 名), 採用者数は 1-10 名 (平均 3.9 名)。全体で年 220 名程度の卒後研修医を受け入れており, 新卒者の約 1 割を占める。

#### 2. 外来患者の概要

一施設あたりの年間初診患者数は 1300-6300 名, 平均 2741 名, 紹介患者の割合は院外からが 48%, 院内他科からは 26%であった。

#### 3. 疾患の内訳

任意の 1 か月間の初診患者の内訳は, 口腔外科疾患が 10-100%, う蝕, 歯周疾患, 歯牙欠損など, それ以外の疾患が 0-40% 程度であった。

#### 4. 研修内容

歯科口腔外科での研修に加えて, 麻酔科: 49 施設, 救命救急: 8 施設, ICU: 4 施設での研修が行われていた。

## まとめ

医学部附属病院歯科口腔外科での卒後研修の特色として以下のことがあげられる。

腫瘍, 外傷, 先天奇形, 顎変形症などの口腔外科疾患やう蝕, 歯周疾患, 欠損補綴など多様な疾患を治療対象としている。院内紹介患者の診療では, 様々な全身基礎疾患を有する患者の治療を経験できる。さらに, 麻酔科, 救命救急, ICU 研修などを取り入れている施設が多く, 医科歯科連携診療のみならず全身管理を学ぶ機会がある。

## 略 歴

---

### 【学 歴 ・ 職 歴】

|             |  |
|-------------|--|
| 1983年 3月    | 日本歯科大学歯学部 卒業                           |
| 1983年 4月    | 国立医療センター(現国立国際医療センター)歯科口腔外科 研究生        |
| 1983年 5月    | 歯科医師免許取得(歯科医籍登録番号 第88337号)             |
| 1983年 7月    | 国立療養所多摩全生園歯科, 国立病院医療センター歯科口腔外科<br>併任技官 |
| 1987年 2月    | 札幌医科大学医学部口腔外科学講座 研究生                   |
| 1988年 8月    | 札幌医科大学医学部口腔外科学講座 助手                    |
| 1993年 7月    | 歯学博士(札幌医科大学 第1413号)                    |
| 1997年 4月    | 札幌医科大学医学部口腔外科学講座 講師                    |
| 2002年12月    | 札幌医科大学医学部口腔外科学講座 助教授                   |
| 2005年 9月 1日 | 富山医科薬科大学医学部歯科口腔外科学講座 助教授               |
| 2005年10月 1日 | 富山大学大学院医学薬学研究部歯科口腔外科学講座 助教授            |
| 2007年 7月16日 | 富山大学大学院医学薬学研究部歯科口腔外科学講座 教授             |



平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:10 ~ 16:40

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

シンポジウム



## 2. 兵庫医科大学病院歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラム～兵庫県病院歯科医会での活動も含めて～

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

岸本 裕充 主任教授

### 講演概要

兵庫医科大学は 1972 年に開学し、1979 年に歯科口腔外科学講座が開設された。兵庫医科大学に歯学部を設置する構想があった名残りで、口腔外科だけでなく、保存や補綴の専門医も在籍し、一般歯科の臨床も充実していることは当科の特徴の 1 つである。

医科に 2 年遅れて 2006 年に歯科では 1 年間の卒後臨床研修が必修となった。当科では、以前には 3 年の研修プログラムを組んでいた時期もあったが、その後、2 年間で口腔外科と一般歯科をバランスよく研修するプログラムで運用していたことから、2006 年の必修化後も 2 年間の研修を継続している。

当科の研修医の定員は 2006 年の必修化時には単独型 3 名、複合型 2 名の計 5 名であったが、2008 年から単独型 3 名のみとなった。研修のプログラムは、一般歯科外来と口腔外科外来、口腔外科病棟を 3～4 か月毎にローテイトする。研修医の指導には、主任教授をはじめ助教以上の有資格者 11 名が指導にあたる。指導医のうち日本口腔外科学会認定の口腔外科指導医の資格を持つ 4 名は、いずれも当科の研修プログラムを修了し、本学で学位も取得しており、これを将来モデルの 1 つに掲げている。毎年マッチングの平均倍率は約 6 倍であり、志望の動機として、当科の研修プログラム（口腔外科と一般歯科のバランス）、本学の立地条件（交通の便が良好で患者数が豊富）、医科の臨床研修医の手当てと同等、などに魅力を感じるようである。

兵庫県では、当科を含め 57 の病院歯科が兵庫県病院歯科医会に属している。このうち、歯科医師臨床研修プログラムを有するのは 11 施設で、定員では神戸大学医学部附属病院が 10 名で最大、当科が 3 名、神戸市医療センター中央市民病院が 2 名で、他の施設は 1 名である。研修期間は 1 年または 2 年で、医科の臨床研修医の手当てと同等の施設が多く、初年度の手当ては月額 30 万円から 40 万円である。研修の内容は、各施設の地理的条件も含めた性格や指導医と研修医の人数比によって多様であるが、兵庫県病院歯科医会では 2006 年の必修化時以降、毎年研修医報告会を開催し、情報交換とともに研修プログラムの充実に努めてきた。この報告会には、兵庫県の各施設の研修プログラムに興味を持つ歯学部在校生も参加可能である。



## 略 歴

### 【学 歴 ・ 職 歴】

- 1989年 3月 大阪大学歯学部 卒業
- 1989年 6月 兵庫医科大学病院 臨床研修医(歯科口腔外科)
- 1996年 9月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
- 2002年 1月～  
2004年 1月 米国インディアナ大学医学部外科 ポスドク
- 2005年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師
- 2009年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 准教授
- 2013年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授, 現在にいたる

- 日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医, 同 指導医
- ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター
- 日本口腔感染症学会 専務理事
- 口腔顔面神経機能学会 理事
- 日本口腔外科学会 代議員
- 日本口腔科学会 評議員
- 日本歯科薬物療法学会 評議員
- 日本口腔ケア学会 評議員
- 日本口腔インプラント学会 代議員
- 日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員
- 兵庫県病院歯科医会 顧問

平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:10 ~ 16:40

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

シンポジウム



## 指定発言

## 兵庫県病院歯科医会がめざす歯科医師臨床研修

兵庫県病院歯科医会会長  
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科

足立 了平 教授

## 講演概要

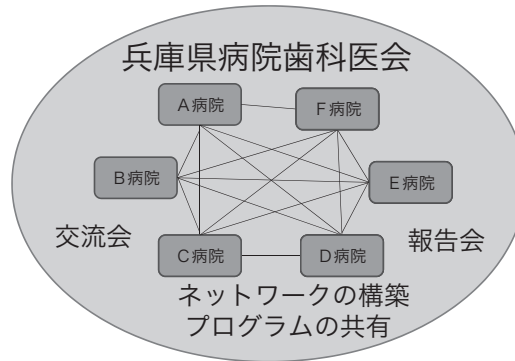
兵庫県病院歯科医会は昭和 62 年の設立から今年で 27 年を数える。現在、県下 57 施設（2 大学医学部附属病院を含む）に勤務する歯科医師によって組織され、兵庫県歯科医師会との連携のもとに地域医療連携に貢献している。このうち、歯科医師臨床研修を実施している施設は、2 大学病院を除いて 10 施設あり、常時 15 名（4～1 名/施設）程度の歯科医師が臨床研修を行っている。研修期間は 2～1 年で、指導歯科医師数は 1 施設当たり 4～2 名（常勤歯科医師のみ）さらに、2 施設が 3 年間の後期臨床研修制度を設置している。

病院歯科の特徴を活かした研修内容として、各施設に共通して認められるのは、①がんを含む口腔外科症例、②共観による入院患者の管理、③埋伏（智歯）抜歯の執刀、④周術期の口腔機能管理、⑤有病者の歯科治療、⑥年 1 回の学会報告などである。2 年研修を実施する施設では麻酔科研修と保健所研修が設定されている。加えて、技術・態度の習得において特徴的なものとして、①紹介状と返書の書き方、②医師、看護師など多職種との協働、③院内チーム医療（NST など）への参画が挙げられる。

さて、歯科医師臨床研修制度の基本理念は「臨床研修は、（中略）一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。（歯科医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）」とされるが、その目指すところはかかりつけ歯科医としてプライマリケアが不足なく提供できることにあり、単に歯牙の外傷やう蝕、歯周病、口内炎の基本的な治療を指すのではない。患者を極端な不利益から守るためには、口内炎と口腔がん、歯周病と白血病の歯肉症状との鑑別、歯牙脱臼や顎骨骨折患者に対する初診時の適切な処置と予後に関する説明ができるという到達目標が設定されるべきである。さらに、検査値読解力の欠如、紹介状の記載不備や返書を書かないといった基本的作法の欠如などが問題点として取りざたされる中、すぐれた「かかりつけ歯科医」は、1 次・2 次医療を担当し多彩な患者が来院する病院歯科でこそ育まれるものであると信じている。

兵庫県病院歯科医会では、10 年前から年度末に「歯科医師臨床研修報告会」を開催し、各施設の代表研修医が 1 年間の成果を報告することになっている。また、今後は年度初めの交流会や一部で始まっている研修医ネットワークの構築、研修の施設間交流などいわゆる「兵庫方式」による研修教育の充実を図る予定である。

## 概念図



## 略 歴

### 【学 歴 ・ 職 歴】

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 1978年 | 大阪歯科大学 卒業                   |
| 1978年 | 大阪歯科大学歯科麻酔学講座 臨床研修員         |
| 1980年 | 鳥取県立中央病院口腔外科 医員             |
| 1982年 | 神戸市立中央市民病院歯科口腔外科 医員         |
| 1989年 | 神戸市立西市民病院歯科口腔外科 副医長         |
| 1995年 | 阪神・淡路大震災により病院崩壊(5年間仮設診療)    |
| 2002年 | 西市民病院歯科口腔外科 部長              |
| 2008年 | 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 教授(現在に至る) |
| 2010年 | ときわ病院歯科口腔外科 部長(兼務 現在に至る)    |

### 【著 書】

- ・「4 疾病のオーラルマネジメント」金芳堂, 2012
- ・「義歯・口腔ケアの知恵と工夫」ヒョーロン, 2012
- ・「一歩進んだ口腔ケア」金芳堂, 2010
- ・「災害時の公衆衛生」南山堂, 2012
- ・「歯科における災害対策—防災と支援—」砂書房, 2011 ほか

### 【役 職】

- ・兵庫県病院歯科医会会長
- ・神戸常盤大学教育研究開発センター長



平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:10 ~ 16:40

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

シンポジウム



### 3. 金沢大学附属病院における歯科臨床研修医教育の現状について

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野(歯科口腔外科)

川尻 秀一 教授

#### 講演概要

金沢大学医学部附属病院(現在は金沢大学附属病院)歯科口腔外科では歯科医師臨床研修医制度が平成 18 年 4 月にスタートした当初から研修医を受け入れ教育を行っています。これまで受け入れた研修医の数は、平成 18 年度が 5 名、19 年度が 6 名、20 年度が 5 名、21 年度が 6 名、22 年度が 6 名、23 年度が 6 名、24 年度が 7 名、25 年度 5 名、26 年度は 2 名で、9 年間の合計 48 名です。このうち出身地が富山、石川、福井の北陸地方出身の研修医が 40 名、83%と地元率の非常に高い施設です。その原因は、北陸地方には歯学部が設置されている大学がないこと、また歯科研修医を受け入れている公立病院は 3 施設、医学部附属病院は 4 施設しかないことがあげられます。

一方、研修医に歯学部ではなく医学部で臨床研修を希望する理由を訊ねると、全身疾患を持った患者さんの扱い方や医科との連携について勉強しやすいと答える研修医が近年多く、研修医制度以前の新人入局者の入局希望理由の、口腔外科を覚えたい、大学院で研究をしたいといった、明確な目的を持った新人は減少しています。そこで我々の施設でも研修医の希望を考え、研修医には全員が 1 年間を通じて外来と病棟をバランス良く研修できるように配慮しています。また、病院内で行われる医療安全や感染対策などの医師向けの講習会や研修会にも積極的に参加させることで、医学的な知識を習得できるように考慮しています。実際の金沢大学における研修医の研修内容については講演の中で詳しく述べさせていただきます。

医学部歯科口腔外科では医学部の特徴を生かした研修ができないかと皆さん考えていると思います。我々も歯学部ではなかなか経験できない内容を盛り込んだプログラムを行いたいと考え、研修医による救急当直医の補助を行ってみた時期もありました。また医学部他科での短期研修を企画したこともありました。いずれも現在は行われておりません。それぞれの施設で特徴を生かした研修プログラムが作成されていると思いますが、問題点などをシンポジウムで共有し、研修医にとって充実した研修プログラムにするにはどのようにしたら良いか皆さんと検討したいと思います。

## 略 歴

---

### 【学歴・職歴】

1989年 3月 愛知学院大学歯学部 卒業  
1989年 4月 金沢大学医学部附属病院歯科口腔外科 医員(研修医)  
1994年 3月 金沢大学大学院修了(医学博士)  
1994年 4月 金沢大学医学部附属病院歯科口腔外科 医員  
1996年11月 金沢大学医学部歯科口腔外科 助手  
1999年 1月 Eastman Dental Institute, University of London 留学  
2007年 5月 金沢大学医学部附属病院歯科口腔外科 講師  
2011年 8月 金沢大学大学院医学系がん医科学専攻細胞浸潤学(歯科口腔外科)  
教授

日本口腔外科学会：専門医・指導医

日本がん治療認定医機構：認定医

平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:10 ~ 16:40

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

シンポジウム



#### 4. 歯学部学生教育ならびに歯科医師卒後研修に関する一考察

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議事務局  
中央社会保険医療協議会専門委員  
日本口腔科学会(日本医学会第 31 分科会)理事長  
日本学術会議会員  
千葉大学大学院医学研究院先端がん治療学研究講座口腔科学分野

丹沢 秀樹 教授

##### 講演概要

医学部と歯学部の学部教育、医師と歯科医師の卒後研修などを実際に受け、また、実施している立場から、歯学教育、卒後臨床研修、専門・生涯教育に関して、私なりに歯学教育・研修に対する医学の貢献の可能性に関する考察を行ってみた。本講演の中で、具体的な取り組みもご紹介しながら、展望を述べたい。

本稿では、字数に制限もあるため、考え方の概略を述べる。

現在の歯学部における教育やその議論を見聞きするにつけ残念であるのは、職業教育としての学部教育に重きを置くあまり、高等教育としての大学教育が軽んじられているのではないかという点である。特に最近では、国家試験に合格できない歯学部卒業生が多くなっている。それらの歯科医師になりきれない若人のことを思うにつけ、世間から大学卒業者として認められるだけの人格・教養教育はどうなってしまったのかと心を痛めている。さらに、「歯学教育に対する社会のご理解・信頼の確保、及び歯科医師の活躍の場の拡大を図っていくためには、社会の変革の推進役となる歯学部づくり」(厚生労働省、歯科医師の資質向上等に関する検討委員会)のためにも、単なる職業訓練だけではない、高等教育としての歯学教育が求められているのではないだろうか。このような想いを以前から抱いていた私は、今回の岡山大学を幹事校とする課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成」事業への申請・計画書を読んだ時に、単なる職人教育ではなく、全人的教育と医科歯科連携教育体制の構築」を強く意識したプログラムであると好印象を得ることができた。

特に、現在、歯学教育に関して、主に以下の項目の改善・充実が求められている。

- 診療参加型臨床実習の充実
- 多様な歯科医療ニーズに対応した歯科医師養成

診療参加型臨床実習に関しては、歯科における高頻度診療が主に取り上げられているが、高齢化に伴う有病者歯科なども含めた患者管理に関する「診療参加型実習」や、歯科医療の多様なニーズとしてあげられている在宅歯科医療、地域包括ケア、口腔がん、スポーツ歯科、健康長寿社会の実現(に貢献する高齢者歯科医療)のための実習や卒後臨床研修は、歯学部単独で可能なものではなく、医学部やその附属病院、さらには地域施設の協力が必須であると考え。この意味で、ぜひ、今回のプロジェクトを契機として、医学部、医学部附属病院をもっと活用した歯学教育・研修を推進していただきたいと考えている。

## 略 歴

---

### 【学歴・職歴】

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 1982年       | 千葉大学医学部 卒業                            |
| 1986年       | 東京医科歯科大学歯学部 卒業                        |
| 1991年       | 千葉大学大学院医学研究課程 修了                      |
| 1997年       | 千葉大学医学部 教授<br>千葉大学医学部附属病院歯科・顎・口腔外科 科長 |
| 2001年～現在    | 千葉大学大学院医学研究院 教授                       |
| 2003年～2008年 | 21世紀COEプログラム 拠点リーダー                   |
| 2006年～2012年 | 千葉大学大学院医学研究院 副研究院長                    |
| 2009年～2013年 | がんプロフェッショナル養成プラン 総責任者                 |
| 2009年～2013年 | 日本科学技術振興機構独創的シーズ委託開発事業 代表研究者          |
| 2012年～2014年 | 日本学術振興会学術システム研究センター 専門研究員             |
| 2013年～現在    | 中央社会保険医療協議会 専門委員                      |
| 2014年～現在    | 日本口腔科学会(日本医学会第31分科会) 理事長              |
| 2014年～現在    | 日本学術会議 会員                             |



平成 27 年 2 月 13 日 (金) 17:00 ~ 17:45

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

## 講演 1

座長：川尻 秀一 教授 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野 (歯科口腔外科))

**「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人を養成する**

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

岸本 裕充 主任教授

## 講演概要

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座では、周術期を中心に様々な場面でのオーラルマネジメント (OM) に先駆的に取り組んできた。当科のプログラムでは、健康長寿社会に寄与できるように、まず卒後臨床研修の基礎として OM の構成要素である“CREATE”を理解することを課題としている。この CREATE は当科のオリジナルであり、OM の構成要素として、広義の口腔ケアとされる「清掃 (Cleaning)」と「リハビリ (Rehabilitation)」の 2 つに加え、ブラッシング指導のような「教育 (Education)」,そして的確な口腔の「評価 (Assessment)」,さらに抜歯や義歯の調整などの「歯科治療 (Treatment)」の 5 つが揃うことが重要であるという概念である。以上の 5 要素を適切に達成できれば、おいしく「食べる (Eat)」,もしくは、「楽しむ (Enjoy)」ことが可能となり、Cleaning から Eat・Enjoy までの頭文字 6 つを順に並べると CREATE で、「食べられる口を CREATE (つくる)」が目標である。

「平時」から OM を理解し、その実践に努めることは、高齢者が弱者となる災害時に加え、患者にとっては「有事」と言えるがんの治療などの周術期においても、生と死を意識しながら、多職種との連携によるチーム医療を的確かつ円滑に実践できるようになるための必要条件であろう。卒前教育を受ける歯学部では十分に経験しにくい医師、看護師ら、多職種との医療連携の中で得たノウハウを、当科での OM の実践の中で学ぶことができる。当院のスタッフは、医科大学病院におけるがん医療は当然のこととして、阪神・淡路大震災と JR 福知山線脱線事故という 2 つの大きな災害を教訓として、そのマインドを活かしたチーム医療を展開しており、臨床研修歯科医に大きなインパクトを与えることが可能である。

本コースを修了し、健康長寿社会を目指し、「平時」には“CREATE”の概念に基づく周術期の OM を、また、近い将来に発生することが予測されている大規模災害 (例：南海トラフ地震) のような「有事」を想定して、実践的な歯科医療をシミュレーションしておくことは、臨床研修歯科医師にとってきわめて有益であろう。



## 略 歴

### 【学 歴 ・ 職 歴】

1989年 3月 大阪大学歯学部 卒業  
1989年 6月 兵庫医科大学病院 臨床研修医(歯科口腔外科)  
1996年 9月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手  
2002年 1月～  
2004年 1月 米国インディアナ大学医学部外科 ポスドク  
2005年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師  
2009年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 准教授  
2013年 4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授, 現在にいたる

日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医, 同 指導医  
ICD制度協議会認定 インфекションコントロールドクター  
日本口腔感染症学会 専務理事  
口腔顔面神経機能学会 理事  
日本口腔外科学会 代議員  
日本口腔科学会 評議員  
日本歯科薬物療法学会 評議員  
日本口腔ケア学会 評議員  
日本口腔インプラント学会 代議員  
日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員  
兵庫県病院歯科医会 顧問

平成 27 年 2 月 13 日 (金) 17:45 ~ 18:30

岡山大学歯学部棟 4F 第一講義室

講演 2

座長：飯田 征二 教授 (岡山大学病院歯科系代表副病院長, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔再建外科学分野)



金沢大医学部における歯学教育プログラム—特色および具体的な  
取り組み—

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野 (歯科口腔外科)

中村 博幸 准教授

講演概要

社会が超高齢化へと進む中で、歯科疾患構造も変化し求められる歯科医療がこれまでと異なりつつある。この変化に対応できる歯科医師を育てるため歯科教育も同様に变革していく必要がある。歯学部のない北陸3県(福井, 石川, 富山)では各県に存在する国立大学医学部歯科口腔外科が主に卒業後歯科教育を担ってきたが、その内容は基本的にそれぞれの大学の裁量に任されている。

これまでの金沢大学の歯科卒業教育は、臨床歯科研修医および自講座大学院生に向けてそれぞれ研修プログラムが用意されてきた。しかし、その内容は主に口腔外科に関する内容が中心で、超高齢社会で重要性が認識されている専門的口腔ケア、摂食嚥下診療を含む口腔機能管理に関する教育はこれまで行われていない。また、金沢大学医学部歯科口腔外科では医学部学生のBSLや講義の機会を与えられているにもかかわらずこれまで、系統的口腔外科疾患についての教育のみで、口腔機能管理の重要性や全身疾患との関連性について教育は行ってこなかった。さらに、歯学部のない石川県において国立大学医学部歯科口腔外科が社会人歯科医師に対する歯学教育機関としての役割が求められているが、これまで大学として人材育成の機能を果たしてきたとは言い難い。

以上の現状を見直し、金沢大学では超高齢社会で対応が求められる歯科医療のなかでもとくに、高齢有病者の口腔機能を総合的に評価・管理できる歯科医師および医師教育のためのプログラムを設定した。口腔機能管理が求められる主な疾患としては、がん、認知症、脳血管障害、神経変性筋疾患などがあり、このなかで、がん、認知症の口腔機能管理に焦点を絞ってプログラムを策定した。その理由として金沢大学は、教育機関で唯一のがん研究所をもち、がん診療のみならず世界的にも高度ながん研究を推進している。また、現病院長が代表を務めるがんプロ事業(がんプロフェッショナル医養成プラン)が進行しており、がんに関する十分な知識を得るに最適な環境が整っていることが挙げられる。さらに、このがんプロに加えて、本年度金沢大学では認プロ(認知症プロフェッショナル医養成プラン)が採択され、認知症に関する最新の知識を得るのに最適な環境が同様に整備される予定であることも理由の1つになっている。

金沢大学や本事業の他の連携大学のプログラムを履修した歯科医師および医師が地域社会において、医科歯科連携の現場をよく理解し、医療職の共通言語を持つことは、構想区域内において必要とされる

歯科医療提供体制を構築するために重要である。また、本事業で作成される優良なコンテンツを金沢大学の社会人プログラム枠を通じて県歯科医師会に提供しながら連携して教育拠点形成を推進し、体系的な卒後歯科教育を行う。将来的には、本事業で得られた成果を結集する形で、金沢大学附属病院に歯科教育も合わせて担う口腔機能管理センター等の設置を目標とする。

## 略 歴

---

### 【学歴・職歴】

|       |   |
|-------|---|
| 1994年 | 福岡県立九州歯科大学 卒業   |
| 1998年 | 慶応義塾大学医学部病理学講座 博士研究員  |
| 1999年 | 医学博士(金沢大学)  |
| 2000年 | 東京大学医科学研究所腫瘍細胞社会学 日本学術振興会特別研究員                                  |
| 2004年 | インペリアルカレッジロンドンケネディーリウマチ研究所 博士研究員                                |
| 2009年 | 東京医科歯科大学歯と骨のGCOE拠点 特任講師   |
| 2011年 | 国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター再生歯科医療研究部 副部長, 東京医科歯科大学歯学部病態生化学 非常勤講師 |
| 2013年 | 金沢大学医薬保健研究域医学系細胞浸潤学(歯科口腔外科学) 准教授                                |



平成 27 年 2 月 14 日 (土) 10:10 ~ 10:40

岡山大学創立五十周年記念館

### 基調講演

座長：脇坂 聡 教授 (大阪大学歯学部長, 大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻)

窪木 拓男 教授 (岡山大学歯学部長, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野)



## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定大学に期待すること

文部科学省高等教育局医学教育課

島居 剛志 課長補佐

### 講演概要

我が国において、今後見込まれる人口動態の変化を踏まえ、医療・介護ニーズの増大・変化に対応した医療人材の育成が喫緊の課題となっており、高い QOL を保つ健康長寿社会の実現に向けて、他の専門職との関わりのもとで医療・介護サービス提供体制を構築することが求められている。

特に、歯科医療の側面からは、極めて大切な口腔機能を生涯を通じていかに正常に維持できるかが重要となっている。また、近年、口腔保健が全身の健康に及ぼす影響について注目されており、歯科疾患と全身疾患（心疾患、糖尿病、認知症など）の関わりに関する研究や診療等の推進が期待されている。

このため、国公私立大学を通じた歯学部間の連携により、今後求められる医療・介護ニーズに対応した歯学教育改革を推進させるため、健康長寿社会の実現に貢献できる歯科医療人等養成プログラム・コースを構築し全国に普及させることを目的として事業を計画し、優れたプログラムを選定した。

そこで、「課題解決型高度医療人材養成プログラム」実施に至る背景、事業（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）の概要、並びに事業実施大学である岡山大学、北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、昭和大学、日本大学、兵庫医科大学に対する「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」からの所見や要望等について紹介する。

これにより、更に充実したプログラムに発展するとともに、今後の歯科医療を支える優れた質の高い歯科医師の養成に向けて、本事業の成果が、歯学教育・歯科医療が抱える問題の解決につながることを期待している。

## 略 歴

---

### 【学 歴 ・ 職 歴】

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 2007年 4月 | 東京医科歯科大学主計課 課長                |
| 2009年 7月 | 高等教育局医学教育課大学病院支援室 室長補佐        |
| 2012年 4月 | 高等教育局医学教育課大学病院 国立大学法人支援課 課長補佐 |
| 2014年 4月 | 高等教育局医学教育課大学病院 医学教育課 課長補佐     |

平成 27 年 2 月 14 日 (土) 10:50 ~ 11:50

岡山大学創立五十周年記念館

特別講演

座長：高橋 一郎 教授 (九州大学歯学研究院副院長, 歯学部門口腔保健推進学講座)

森田 学 教授 (岡山大学歯学部副学部長, 教務委員長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野)



長寿時代のエンドオブライフ・ケア

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座

会田 薫子 特任准教授

講演概要

平和と豊かさで長命は人類の希求するところであり、医学・医療が目指してきた生存期間の延長は寿命革命につながった。しかしそれは同時に、様々な加齢変性を抱えながら長い時間をかけて最期の時へ向かうことをも意味するようになった。多くの人にとって人生は長くなったが、要介護期間も長くなった。老衰の進んだ超高齢者のケアはどうあるべきか。超高齢社会のフロントランナーである日本において、時代に即した議論を興し対策を講ずることは焦眉の急である。

こうした議論の基礎には、適切な医学的・科学的理解が必須である。老年学分野では近年、frailtyに関する研究が盛んに進められている。これは新しい概念であり国内での認知度はまだ十分ではないが、超高齢社会における意義が大きいため、日本老年医学会は 2014 年に日本での用語を「フレイル」と統一し、教育・啓発を行っている。

フレイルは疾患ではなく、加齢によって心身機能・生理的予備能が低下した状態を意味する。フレイルになると、あらゆるストレスに対して脆弱になるため、要介護状態に陥ったり、死亡リスクが高くなったりする。フレイルは 80 歳以上で顕著になるが、個人差が大きい点には注意を要する。適切な栄養摂取や運動、社会的活動の維持によって、フレイルになる時期を遅らせることが可能な場合がある。そのため、まず介護予防と健康寿命の延伸の観点から、医療・介護従事者にとっては重要な概念であるといえる。

一方、フレイルが重度に進行した高齢者においては、手術等の侵襲性の高い医療行為はもちろん投薬などもストレスになるため、より慎重な対応が求められる。医療行為が益よりも大きな害をもたらす恐れがあるためである。その点で、フレイルは本人にとって負担となる過剰医療の予防の指標となる可能性もある。

臨床フレイル・スケール (Clinical Frailty Scale)

|   |   |
|---|---|
| 1 | <b>壮健 (very fit)</b><br>頑強で活動的であり、精力的で意欲的。一般に定期的に運動し、同世代のなかでは最も健康状態がよい。   |
| 2 | <b>健常 (well)</b><br>疾患の活動的な症状を有してはいないが、上記のカテゴリ 1 に比べれば頑強ではない。運動の習慣を有している場合もあり、機会があればかなり活発に運動する場合も少なくない。   |
| 3 | <b>健康管理しつつ元気な状態を維持 (managing well)</b><br>医学的な問題はよく管理されているが、運動は習慣的なウォーキング程度で、それ以上の運動はあまりしない。  |
| 4 | <b>脆弱 (vulnerable)</b><br>日常生活においては支援を要しないが、症状によって活動が制限されることがある。「動作が遅くなった」とか「日中に疲れやすい」などと訴えることが多い。  |
| 5 | <b>軽度のフレイル (mildly frail)</b><br>より明らかに動作が緩慢になり、IADL のうち難易度の高い動作 (金銭管理、交通機関の利用、負担の重い家事、服薬管理) に支援を要する。典型的には、次第に買い物、単独での外出、食事の準備や家事にも支援を要するようになる。 |
| 6 | <b>中等度のフレイル (moderately frail)</b><br>屋外での活動全般および家事において支援を要する。階段の昇降が困難になり、入浴に介助を要する。更衣に関して見守り程度の支援を要する場合もある。                                    |
| 7 | <b>重度のフレイル (severely frail)</b><br>身体面であれ認知面であれ、生活全般において介助を要する。しかし、身体状態は安定していて、(半年以内の) 死亡リスクは高くない。  |
| 8 | <b>非常に重度のフレイル (very severely frail)</b><br>全介助であり、死期が近づいている。典型的には、軽度の疾患でも回復しない。   |
| 9 | <b>疾患の終末期 (terminally ill)</b><br>死期が近づいている。生命予後は半年未満だが、それ以外では明らかにフレイルとはいえない。   |

出典：Morley J.E., et al.: Frailty consensus: A call to action. J Am Med Dir Assoc. 2013;14(6):392-397. 会田薫子訳。  
\*このスケールは、Rockwood K らの研究報告を改編したものである。  
(Rockwood K, et al: A global clinical measure of fitness and frailty in elderly people. CMAJ 2005;173:489-495.)

長命が長寿となるために必要なのは緩和ケアのアプローチである。医療施設のみならず介護施設でも在宅でも、「いつでも、どこでも緩和ケア」を提供し、どのように生き、どのように生き終わるべきかという死生学の問いを本人・家族とともに考えることが、ケアのプロフェッショナルには求められている。

超高齢社会の緩和ケアにおいて、歯科医療者の役割は重大である。「食」を支え、口腔内の衛生状態を維持することは、QOLに直結する重要な仕事である。また、老年分野の二大問題の1つといわれている、人工的水分・栄養補給法をめぐる諸課題にも深く関係する。

本人の視点から見たQOLの維持、「本人の満足」と家族の納得のために、医療・ケアの専門職はどのように対応していくべきか。新しい時代のエンドオブライフ・ケア（人生の最終段階を支えるケア）とはどのようなものか、意思決定上の要点なども含め、ご一緒に考えたい。

## 略 歴

### 【略歴】

東京大学 大学院医学系研究科 健康科学専攻博士課程修了 博士(保健学)

ハーバード大学メディカル・スクール医療倫理プログラム、フェロー(フルブライト留学)、東京大学グローバルCOE死生学の研究員を経て、現職(2012年4月から)

### 【現職】

東京大学 大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣講座 特任准教授

専門:医療倫理学, 臨床死生学, 医療社会学

研究分野:エンドオブライフ・ケア, 延命医療, 高齢者医療, 脳死, 臓器移植

### 【主要著書】

『延命医療と臨床現場:人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学』東京大学出版会(2011)

2012年度日本医学哲学・倫理学会賞受賞

2012年度三井住友海上福祉財団賞受賞

『老い方上手』WAVE出版(共著, 2014)

『高齢者ケアと人工栄養を考える:本人・家族のための意思決定プロセスノート』医学と看護社(共著, 2013), 『シリーズ生命倫理学3 脳死・臓器移植』丸善出版(共著, 2012), 『シリーズ生命倫理学4 終末期医療』丸善出版(共著, 2012)など

### 【主要論文】

"New organ transplant policies in Japan, including the family-oriented priority donation clause." *Transplantation* 91: 489-491, 2011

"Physicians' psychosocial barriers to different modes of withdrawal of life support in critical care: A qualitative study in Japan," *Social Science & Medicine* 70: 616-622, 2010.

"Japan approves brain death to increase donors, but will it work?" *Lancet* 374: 1403-04, 2009.

"Withdrawal of care in Japan." *Lancet* 368:12-14, 2006. など

### 【学会活動, 社会活動】

日本生命倫理学会 理事

日本医学哲学・倫理学会 評議員

日本老年医学会 代議員

日本救急医学会倫理委員会 委員

日本透析医学会倫理委員会 委員

日本専門医機構外部評価委員会 委員

静岡県立静岡がんセンター治験倫理審査委員会 委員

NPO法人PEGドクターズネットワーク(PDN) 理事

PEG・在宅医療研究会 幹事など



平成 27 年 2 月 14 日 (土) 13:00 ~ 13:45

岡山大学創立五十周年記念館

講演 3

座長：平野 浩彦 先生 (東京都健康長寿医療センター研究所専門副部長)



歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法学演習例の紹介

日本大学歯学部摂食機能療法学講座

植田 耕一郎 教授

講演概要

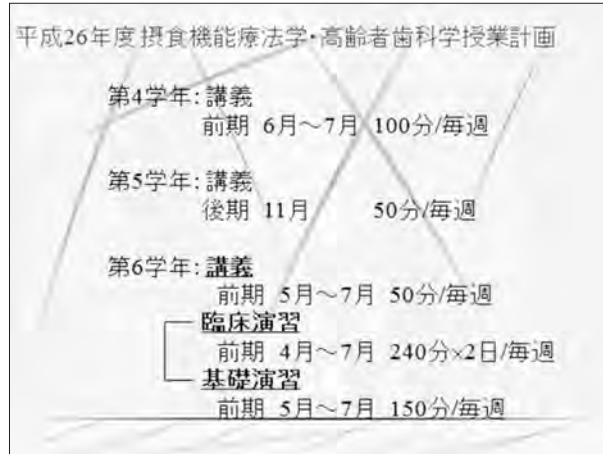
当時、昭和大学歯学部口腔衛生学教授の金子芳洋氏等が執筆した清書「食べる機能のリハビリテーション (1987 年)」は、摂食嚥下リハビリテーションが本格的な臨床・学問体系を歩む足がかりになりました。1993 年にそうした先人達の調査研究の成果が認められ、医科—歯科共同の保険診療に「摂食機能療法」が導入されました。

リハビリテーション医学の理念を歯科医学にも導入することにより、「生活」という視点を持ち、おのずと歯科も多職種協働の一員であるという構図ができあがります。歯科は絶えず「完治」が求められてきましたが、機能改善の他にも代償、環境、心理という側面からのアプローチを組み込むことで、超高齢社会においても柔軟な対応が可能となります。

摂食機能療法学の教育は、全国 29 歯科大学毎に、単位時間、内容ともに違いがあります。それは臨床の場において、本領域の対象患者が、全身的有病者や要介護者であるために、従来の外来診療の枠の中で対応しきれるとは限らず、したがって経験をもつ指導者としての人材に限りがあることが要因の一つと考えられます。

“2025 年問題” とされる超高齢化のピークとともに増加する摂食機能障害への対応は急務です。昨年度歯科医師国家試験出題要項に、高齢者歯科の領域が設けられ、その中に「摂食機能療法」の項が明記されたことは画期的なことでした。まずは摂食嚥下リハビリテーションの社会的需要に、教育が追いつかなくてはなりません。

開設して 10 年の当講座は、カリキュラムの編成がおこなわれる度に、講義枠と演習の単位が増し、平成 26 年度は第 4、第 5 学年の講義、第 6 学年の基礎演習に加えて、あらたに臨床演習が組まれています。今回、講義と演習の実例を紹介し、今後の歯科教育の中での摂食機能療法学の展開について、ご参加の方々からご意見をいただければ幸甚です。



## 略 歴

### 【学 歴 ・ 職 歴】

|                    |   |
|--------------------|---|
| 1983年 3月           | 日本大学歯学部 卒業  |
| 1987年 3月           | 日本大学大学院歯学研究科 修了(歯学博士取得)   |
| 1987年 4月           | 日本大学歯学部 助手  |
| 1990年 6月           | 東京都リハビリテーション病院 医員   |
| 1999年 4月           | 新潟大学歯学部加齢歯科学講座 助教授  |
| 2004年 4月           | 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授   |
| 2014年 9月           | 日本大学歯学部附属病院 副病院長  |
| 2005年度             | 厚生労働省介護予防検討委員会 口腔機能の向上支援マニュアル研究班 主任研究者  |
| 2006, 2007, 2008年度 | 厚生労働省「介護予防継続的評価分析等検討委員会」委員  |
| 2007年度             | 「介護予防給付の栄養改善, 口腔機能の向上支援の実施に関する研究」主任研究者  |
| 2008, 2009, 2010年度 | 「摂食・嚥下機能改善のための補助具に関する研究」主任  |
| 2006, 2009, 2012年度 | 「口腔機能向上支援マニュアル(改訂版)」研究班長  |
| 現在に至る              | 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 副理事長, 認定士<br>老年歯科医学会 認定医, 指導医, 常任理事<br>日本口腔リハビリテーション学会 理事<br>愛知学院大学歯学部 非常勤講師<br>神奈川歯科大学 非常勤講師<br>奥羽大学 客員教授 |

### 【関 連 著 書】

1. 植田耕一郎: 脳卒中患者の口腔ケア, 医歯薬出版, 2008年第4刷.
2. 植田耕一郎: 患者説明用・教育用ビデオ 要介護高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア, デンタルダイヤモンド社, 2001年.
3. 植田耕一郎編 他2名: 口と歯の病気マップ, 医歯薬出版, 2003年.

### 【一 般 書】

植田耕一郎: 「長生きは唾液で決まる」講談社α新書, 2014年7月22日

平成 27 年 2 月 14 日 (土) 13:45 ~ 14:30

岡山大学創立五十周年記念館

講演 4

座長：横山 敦郎 教授 (北海道大学歯学部長, 北海道大学大学院歯学研究科口腔機能補綴学教室)



## 北海道大学における歯科医学教育

北海道大学大学院歯学研究科臨床教育部門

井上 哲 教授

### 講演概要

今回採択された岡山大学主幹「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革事業—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築」事業に、北海道大学も連携大学として参加するに当たり、本講演では、北海道大学の歯学教育の現状について、特に本事業の課題である健康長寿社会を担う歯科医師養成に関する内容や、本事業で北海道大学が行う歯科研修医対象の教育プログラムについて概要を説明する。

#### 1. 北海道大学歯学部の教育理念

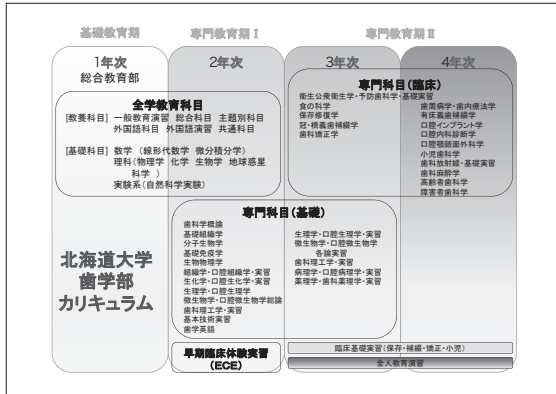
本学は、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」および「実学の重視」という教育研究に係わる基本理念を掲げ、1876年設立の札幌農学校以来、長きに亘り培ってきている。歯学教育もこの4つの基本理念を根本にして定めている。

#### 2. 健康長寿社会を担う歯科医師養成のための教育

従来、4教室でそれぞれが行っていた摂食嚥下障害の講義を、昨年度からまとめて計9回の統一した内容に変更した。また、高齢者歯科学教室で講義数が大幅に増えたことから、新たに、認知症、栄養学、在宅歯科診療などの関連講義を加え、学外の医師、栄養士、看護師など多職種の専門家からの講義を実施している。臨床実習では口腔ケア、介護保険サービスのケアプラン立案、高齢者疑似体験、摂食嚥下障害の実習を実施している。また院外実習では、療養型病院と特別養護老人ホームに各1日出かけ、口腔ケア見学やPT、OT、STのリハビリ見学、通所介護サービス利用者に対する入浴介助、口腔機能向上のレクチャーや、口腔機能向上のためのゲームを考案し、利用者に参加してもらっている。

#### 3. 本事業での教育プログラム「がん治療の周術期における口腔管理研修」

北海道大学病院では、2006年に口腔ケアチームを発足し、主ながん治療の周術期における口腔管理を実施し、種々の合併症軽減に尽力している。さらに2014年春から、歯科診療センターと腫瘍センターとの連携が強化され、ビスフォスフォネート製剤や抗ランクル抗体製剤使用前には、歯科による口腔内の精査ならびに治療が義務化された。周術期における口腔管理の重要性は認識されつつあるが、それを地域で実践できる歯科医師が十分育成されていないのが現状である。そこで、本事業の教育プログラムとして、医科歯科連携に精通し地域歯科医療の核になる人材を育成する目的で、研修医を対象に、がん治療の周術期における口腔管理研修プログラムを実施する。



## 略 歴

### 【学歴・職歴】

- 1982年 3月 北海道大学歯学部歯学科 卒業
- 1986年 3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程(歯学臨床系専攻) 修了
- 1986年 4月 北海道大学歯学部 助手(歯科保存学第一講座)
- 1989年 3月 アメリカ合衆国オレゴンヘルスサイエンス大学歯学部歯内療法学講座 Research fellow (1990年2月まで)
- 1999年 3月 ベルギー王国ルーベンカソリック大学医学部歯学科保存修復・歯科材料学講座 客員教授(2000年7月まで)
- 2002年 5月 北海道大学歯学部附属病院 口腔総合治療部 講師
- 2013年 5月 北海道大学大学院歯学研究科 臨床教育部門 教授



平成 27 年 2 月 14 日 (土) 14:45 ~ 15:30

岡山大学創立五十周年記念館

講演 5

座長：中山 浩次 教授（長崎大学歯学部長，長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔病原微生物学）



## 長崎大学における離島医療保健実習から何を学ぶか？

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教育研究支援センター総合歯科臨床教育学

角 忠輝 教授

### 講演概要

長崎県は最も多くの有人離島を持つ県であり，こうした離島の医療確保のために長崎県および長崎大学は古くから尽力してきた歴史がある。歯学部においてもそのミッションに「離島等の地域歯科口腔医療について保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる歯科医師，及び高度の専門的知識と経験，課題探求能力を身につけた研究者・教育者の養成を積極的に推進する。」と掲げ，「離島等の地域歯科口腔医療について，保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる」ことを教育目標の一つに掲げている。

歯学部臨床教育の特色でもある離島医療保健実習は，医学部・薬学部共修であった離島実習に 2008 年度末に臨床実習生の希望者のみを対象にして開始された。2009 年度より臨床実習の一部として必修化し，全ての臨床実習生（5 年次後期～6 年次前期）が参加することとなった。また，座学として 2010 年より統合科目（5 年次前期）にて離島歯科医学講義を導入した。さらに同年五島市富江町に，旧町立歯科診療所跡を改修し「長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所」を開所し，教育研究ならびに小離島巡回診療の拠点として，また，研究所施設内の一部を実習生の宿泊施設として利用できるようになった。2011 年には五島市の二次離島である杵島（人口約 180 名）に週一回歯科を開設し，長崎大より歯科医師を派遣することとなり，学生はこれに同行する形で僻地医療の一端を体験できるようになった。

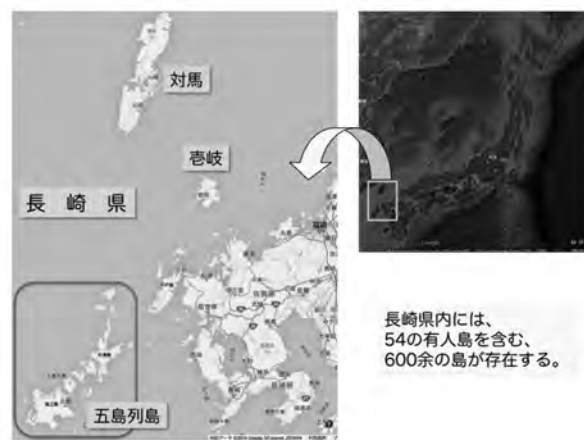
現在の主な実習内容は

1. 五島市社会福祉協議会デイサービスや特別養護老人ホーム只狩荘において口腔ケア，食事の介護を通して口腔機能の低下した高齢生活者とコミュニケーションをとる。
2. 五島市健康政策課／長寿介護課が主催するヘルスプロモーション企画に参加し，医学部，薬学部学生とともに一般市民向けの健康講話を行い，また身体測定，体脂肪計測，血圧測定などを行った後健康指導を実践する。
3. 五島保健所においては，医学部，薬学部学生との共修の形で，保健行政に関わる講習を受講した後，実例を題材にその解決方法についてグループ討議を行う。
4. その他，小中学校訪問による口腔保健指導や開業歯科医院実習を通して，大学の中では体験でき

ない事柄を、多職種と連携し実践する。

本実習は、都市部の大病院中心の医療とは異なり、医療、福祉、保健がコンパクトにまとまっている社会環境で、単なる離島・僻地医療を経験する機会にするだけで無く、近い将来、都市部であっても訪れるであろう超高齢社会のモデルとして位置づけ、中核病院における医科歯科連携医療、高齢者養護施設における多職種とのチーム医療、歯科医院からの訪問診療を体験することができる貴重な実習である。

我々は、地域歯科医療に関する教育と研究を推進し、地域医療の面白さとやり甲斐を伝えることで、地域医療を支える人材を育成し、地域診療支援、ならびに地域医療の活性化に貢献するよう、長崎大学医学部離島医療研究所（五島中央病院内）と新たな取り組みについて検討を行い、更なる充実を図っているところである。



## 略 歴

### 【学 歴 ・ 職 歴】

- 1991年(平成 3年) 長崎大学歯学部 卒業
- 1991年(平成 3年) 九州大学大学院歯学研究科(歯科薬理学講座)
- 1996年(平成 8年) 長崎大学歯学部 助手(歯科放射線学講座)
- 2007年(平成19年) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 助教(頭頸部放射線学分野)
- 2013年(平成25年) 長崎大学歯学部 准教授(卒前・卒後歯学臨床教育担当)
- 2014年(平成26年) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授(総合歯科臨床教育学)

平成 27 年 2 月 14 日 (土) 15:30 ~ 16:15

岡山大学創立五十周年記念館

講演 6

座長：松口 徹也 教授 (鹿児島大学歯学部長, 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻発生発達教育学講座)



## 離島地域を基盤とした地域歯科医療教育の開発

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻社会・行動医学講座歯科医学教育実践学分野

田口 則宏 教授

### 講演概要

鹿児島大学歯学部は「歯科医療人である前に良識豊かな人間であれ」の理念のもと、日本最南端に位置する歯学部として昭和 52 年に設置された。鹿児島県は多くの離島を抱え(有人離島 28 島:全国 4 位, 離島面積:全国 1 位, 離島人口:全国 1 位), 南北距離 600km にわたる広大な環境を有している。このような離島地域は, 経済的, 地理的に恵まれない住民が多く, 地域完結型の医療が強く求められており, 離島地域における医療の最低限の維持は, 地域維持・再生に欠かせない要素となっている。一方で, このような限られた資源で行われる医療環境は, 地域医療教育を行う上で極めて優れたフィールドともいえ, 本学歯学部でも様々な形で学びの場としている。

本学では離島歯科医療教育の柱として, 昭和 59 年より鹿児島県および鹿児島県歯科医師会が実施している離島巡回歯科診療に学生(臨床実習生)を同行させる実習を行っている。この実習は, 歯科医師不在で人口 100 名程度の離島を対象に実施される巡回歯科診療に, 教員及び学生数名を同行させ離島歯科医療の最先端を体験させるものである。実習内容は極めて実践的と考えられるが, 日程面や, 経済面, また地元住民のニーズ面等で問題を抱えており, 改善の必要性が指摘されていた。そこで, これらの問題点を解決する一つの方略として, 平成 26 年度より新たな実習の枠組みを構築し, 運用を開始した。新様式の実習は本学医学部の離島実習と合同で実施され, 地域医療の最前線で多職種連携を学べる機会を提供している。現在では, 種子島, 奄美大島, 与論島の歯科医院, 病院歯科の協力のもと各 5 日間の実習コースを構築しており, 今後さらにコースを増やす予定である。

これらの離島歯科医療教育改革と並行して, 本学では現在組織を挙げて, アウトカム基盤型教育に基づくカリキュラム改革に向けて作業を行っている。目標となるコンピテンスは合計五つ設定し, 特に本学のニーズに基づくコンピテンスとして「地域医療とヘルスプロモーション」を設けた。現在は, これらコンピテンスに対するカリキュラム開発を行っており, 近い将来運用開始できるよう鋭意準備を進めている。

本講演では, 我々が実施している離島巡回歯科診療の実習内容の詳細や, 新たな離島歯科医療実習の枠組みについて情報提供するとともに, 現在進行中のカリキュラム改革の概要についてもご紹介できればと考えている。

## 略 歴

---

### 【学 歴 ・ 職 歴】

1995年 鹿児島大学歯学部歯学科 卒業  
1999年 広島大学大学院歯学研究科(歯科補綴学第二講座) 修了  
1999年 広島大学歯学部附属病院 医員(研修医)  
2000年 広島大学歯学部附属病院 助手(第一総合診療室)  
2006年 広島大学病院 講師(口腔総合診療科)  
2008年 広島大学病院 診療准教授(口腔総合診療科)  
2010年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻  
社会・行動医学講座歯科医学教育実践学分野 教授  
現在に至る

# 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

## アクセスマップ

岡山IC  
山陽新幹線  
山陽本線  
宇野線  
大元駅  
岡山駅  
岡山IC

**2015年2月13日 会場**  
**岡山大学 歯学部棟 4F 第1講義室**

鹿田キャンパス  
Shikata Campus

| バス      |                         |
|---------|-------------------------|
| 岡電バス    | 「2HJ」「12」「22」「52」「62」系統 |
| 路面電車    |                         |
| (清輝橋) 行 | ——                      |

**岡山大学**  
SHIKATA CAMPUS

岡山IC  
山陽新幹線  
山陽本線  
津山線  
NTT  
天満屋  
岡山IC

**2015年2月14日 会場**  
**岡山大学 創立50周年記念館**

津島西キャンパス  
Tsushima West Campus

| バス   |                              |
|------|------------------------------|
| 岡電バス | 駅西口「47」系統<br>(岡大西門経由岡山理科大) 行 |
| 岡電バス | 駅東口「17」系統 (妙善寺) 行            |

**岡山大学**  
TSUSHIMA CAMPUS



課題解決型高度医療人材養成プログラム

キックオフシンポジウム

平成27年2月14日（土）

## 課題解決型高度医療人材養成プログラムについて

高等教育局医学教育課  
課長補佐 島居 剛志

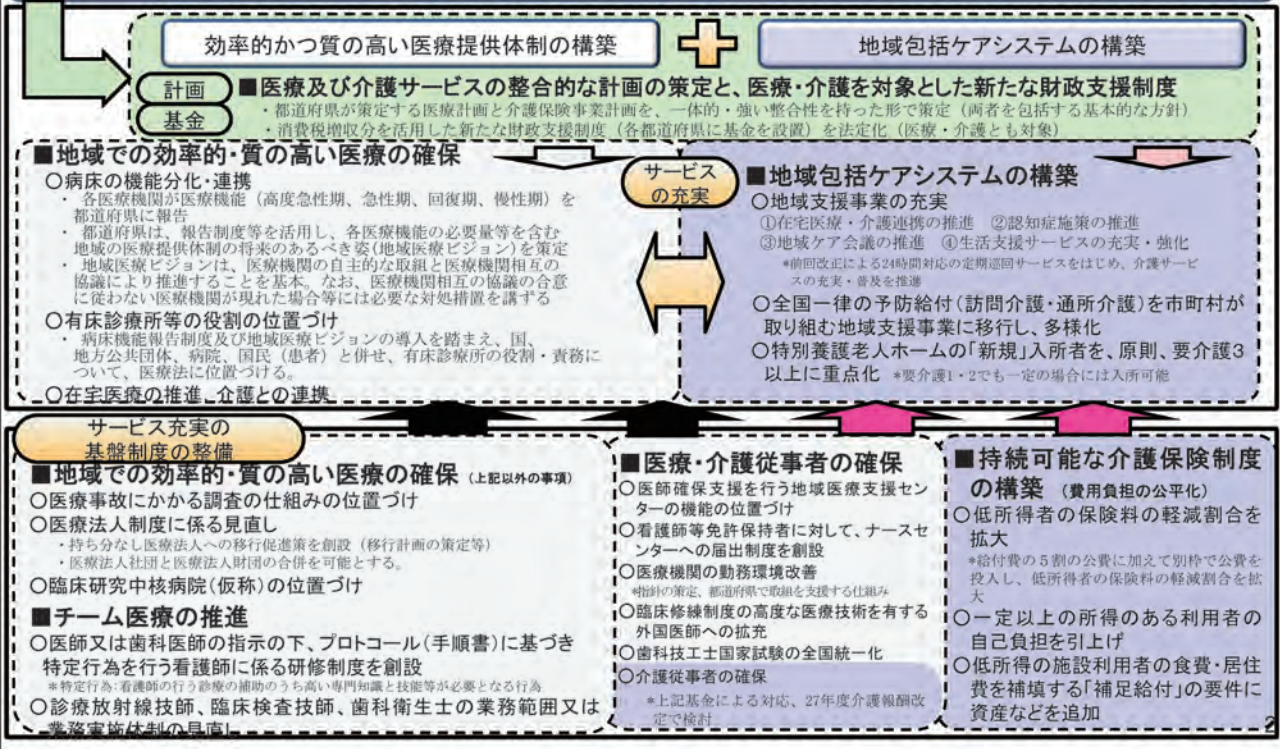


### 1. 事業の背景

## 地域における医療・介護の総合的な確保を図るための改革

厚生労働省提供資料

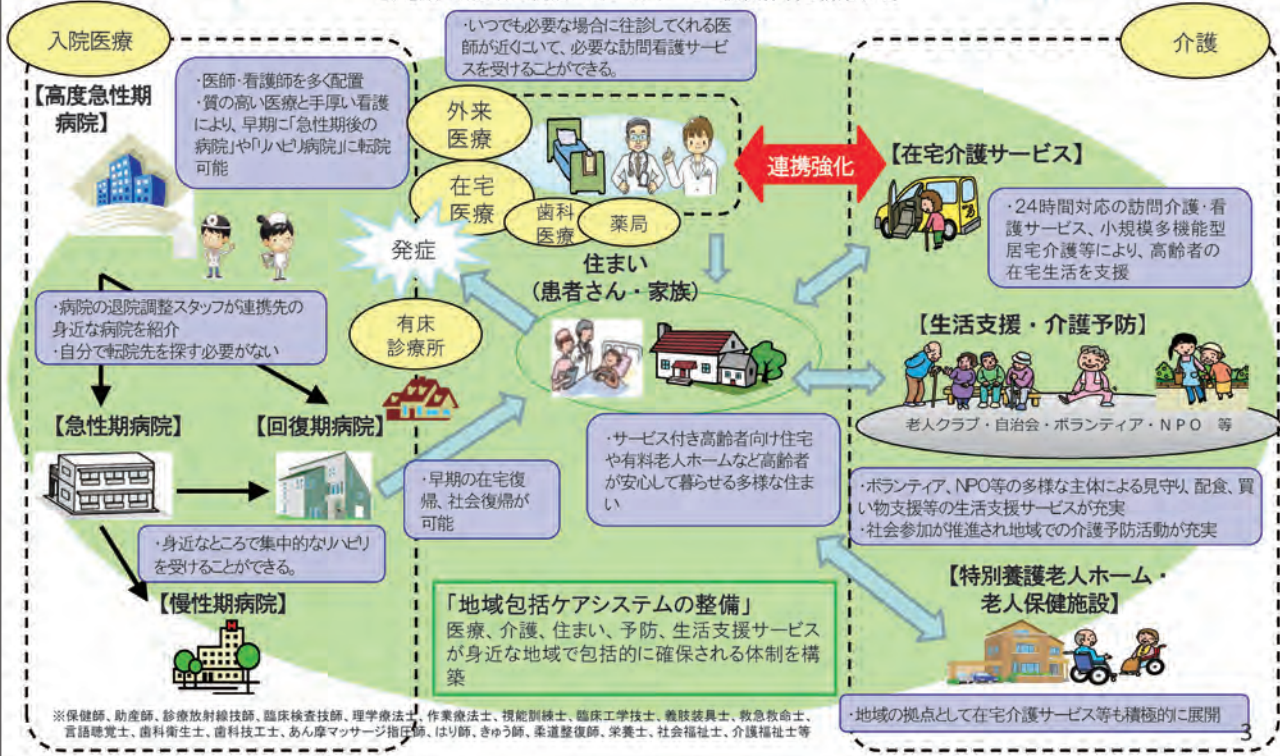
改革の目的： 今回の医療・介護の改革は、プログラム法の規定に基づき、**高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において総合的に確保**することで地域における適切な医療・介護サービスの提供体制を実現し、患者の早期の社会復帰を進め、住み慣れた地域での継続的な生活を可能とすること



## 医療・介護サービスの提供体制改革後の姿（サービス提供体制から）

厚生労働省提供資料

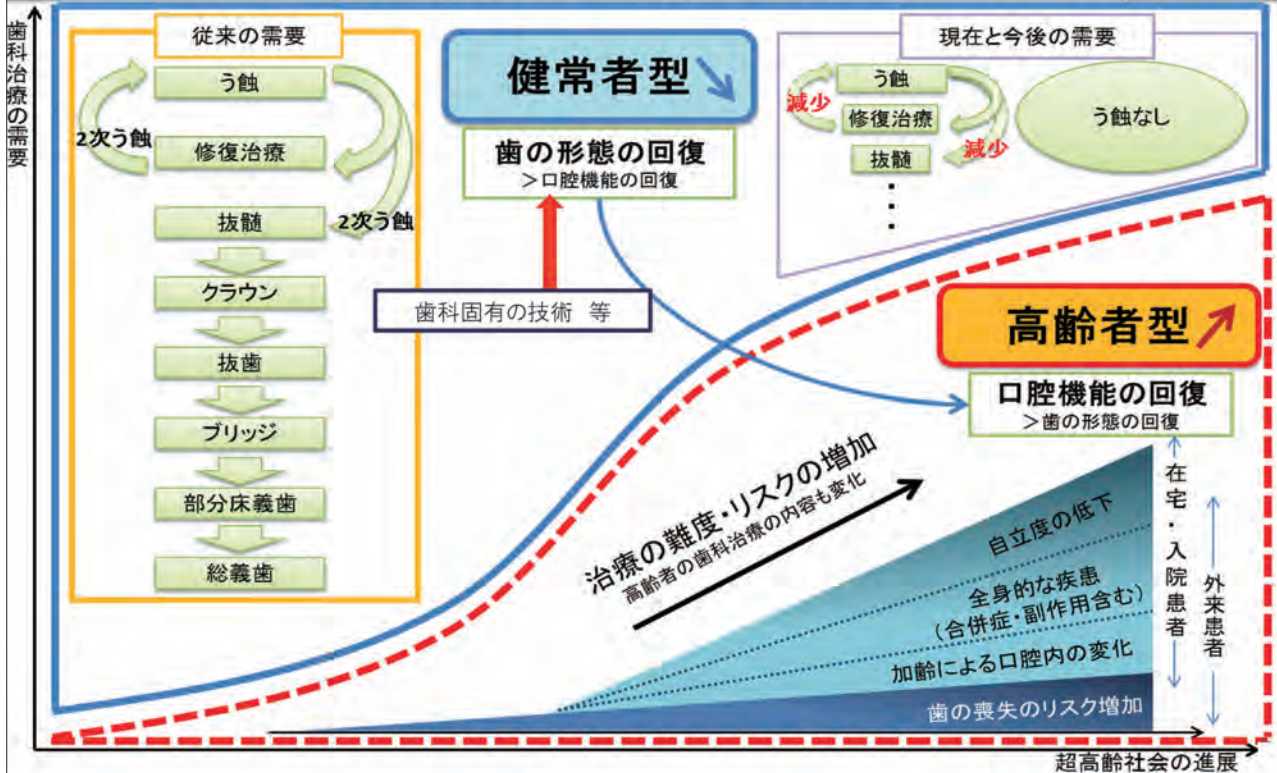
医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員その他の専門職（※）の積極的な関与のもと、患者・利用者の視点に立って、サービス提供体制を構築する。





# 歯科治療の需要の将来予想(イメージ)

中医協 総-2  
25.7.31



## 歯学教育の改善・充実にに関する調査研究協力者会議 第1次報告(H21.1) 概要

### 改善方策

#### 1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保

- 到達目標の設定や成績評価の実施が不十分
- 患者の協力困難、国家試験対策のため診療参加型臨床実習の時間数が減少

- 診療参加型臨床実習の単位数の明記、卒業時到達目標や必要臨床実習項目の明確化
- 臨床実習終了時の各大学でのOSCE(客観的臨床能力試験)の実施
- 学外機関を活用した臨床実習の促進

#### 2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

- 各大学の教育の特色が希薄化
- 共用試験を境に座学と臨床実習が分離

- 各大学の体系的な教育課程の編成の徹底、成績評価・進級判定の厳格な実施
- 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの見直し
- 歯学教育の質を保証する第三者評価の導入

#### 3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

- 入試の選抜機能が低下する大学
- 歯科医師過剰が職業としての魅力低下に影響

- 入学者受入方針の明示、入試関連情報の公開
- 面接の充実、高校との連携等、学生の適性等を見極める各大学の入試の工夫
- 優れた入学者確保が困難な大学、国家試験合格率の低い大学等の入学定員見直し

#### 4. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

- 基礎と臨床が融合された研究等が必要
- 学部段階から研究マインドの育成が必要

- 学部教育の中で研究に携わる機会の拡充
- 歯学系大学院の目的や教育内容を、臨床歯科医、研究者の養成目的に応じて明確化
- 国際的に優れた若手研究者養成のため、大学の枠を超え連携した拠点形成

### 今後の検討

- この提言を踏まえた各大学の取組状況をフォローアップ
- 文部科学省は各大学の改善計画を把握し、必要な改善を推進
- 文部科学省・厚生労働省が連携し、卒前・卒後教育を一体的に捉えた検討



## 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議【提言・要望】①

平成26年2月24日 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

1. 診療参加型臨床実習の充実
2. 多様な歯科医療ニーズ等に対応した歯科医師養成
3. 教育活動等に関する情報の公表
4. 歯学教育認証評価の導入
5. 平成26年度以降のフォローアップ調査の実施
6. 歯学部入学定員

6

## 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議【提言・要望】(抜粋)

平成26年2月24日 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

### 2. 多様な歯科医療ニーズ等に対応した歯科医師養成

- 歯学教育に対する社会のご理解・信頼の確保、及び歯科医師の活躍の場の拡大を図っていくためには、社会の変革の推進役となる歯学部づくりが必要です。
- そのため、各歯学部におかれては、それぞれの強みや特色を活かしながら、多様な歯科医療ニーズ(※)に対応した歯科医師の養成や、地域又は世界規模の課題解決に向けて、引き続き積極的な取組をお願いします。

(※ 多様な歯科医療ニーズ)

在宅歯科医療、地域包括ケアの構築、口腔がん、スポーツ歯科、  
歯科法医学、健康長寿社会の実現、革新的な歯科医療機器の  
開発・普及等

7



## 国立大学のミッションの再定義

国立大学についてはミッションの再定義を実施。今回のミッションの再定義を踏まえ、各大学において、附属病院を軸とした地域の医療機関等とのネットワークを最大限活用しつつ、特色ある取組を推進していくことを期待。公私立大学におかれてもこうした取組を参考としていただきたい。

### 分野ごとの振興の観点(平成26年3月31日 文部科学省高等教育局・研究振興局)(抜粋)

医療・保健分野(医学、歯学、薬学、看護・医療技術分野)については、今後の超高齢社会における医療人としての使命感・倫理観、専門的な能力や研究マインド・課題発見解決能力等の必要な資質を備えた人材の育成はもとより、それぞれの大学が持つ知的資源やネットワークを活用し、教育、研究、診療・実践、地域貢献・国際化といった方向について、特色ある取組を推進する観点から機能強化を図る。特に、高度な医療機能を持つ附属病院と、それを軸とした地域の医療機関とのネットワークを最大限活用して学部教育、大学院教育、現職者の生涯にわたる研修を通じた人材育成を強化する。その際、特に大学院で養成する人材のイメージをより明確化する。加えて、学内の理工系や人社系の学部・研究所、研究所等はもとより、他の大学、研究機関、医療機関、地方公共団体、企業等とのネットワークを強化し、学際的・実践的な研究、チーム医療を担うために必要となる高いレベルでの多職種連携教育等において特色ある取組を推進する。

医学・歯学系分野については、超高齢化やグローバル化に対応した医療人の育成や医療イノベーションの創出により健康長寿社会の実現に寄与する観点から機能強化を図る。具体的には、診療参加型臨床実習の充実等国際標準を上回る医学・歯学教育の構築、総合的な診療能力の育成、卒前・卒後を通じた研究医育成を推進する。また、独創的かつ多様な基礎研究を推進するとともに、分野横断・産学連携を進め、治験・臨床研究推進の中核となり、基礎研究の成果を元に我が国発の新治療法や革新的医薬品・医療機器等を創出する。地方公共団体と連携し、キャリア形成支援等を通じた地域医療人材の養成・確保、高度・先進医療や社会的要請の高い医療を推進する。

薬学分野については、基礎から臨床までを通じた世界水準の創薬研究の推進と、薬学教育6年制化の目的である医療人としての使命感・倫理観と研究マインド・課題発見解決能力を備えた、薬学教育研究を担う人材や医療の現場で先導的役割を果たす薬剤師の育成を進める観点から機能強化を図る。

看護学・医療技術学分野については、医療・保健系大学の設置が進展する中、地域社会の課題解決に貢献する実践力の高い地域のリーダー養成はもとより、看護学及び医療技術学の学術的追求を通じ次世代のリーダーとなる教育者・研究者養成を推進するとともに、大学病院をはじめとした知的資源を活用した学際性・国際性を重視した研究を推進する。

## ミッションの再定義(保健系[歯学])

### 振興の観点

医療人として必要な資質を備えた人材の育成に加え、国立大学の歯学分野においては、超高齢化やグローバル化に対応した人材の育成や、医療イノベーションの創出により、健康長寿社会の実現に寄与する観点から機能強化を図る。

### 歯学を取り巻く現状と社会的要請

#### 健康長寿社会実現への貢献

- 平均寿命と健康寿命の差  
(男性9.1年、女性12.7年)
- 口の健康が全身の健康に深く関係
- 超高齢化に伴う歯科医療ニーズの変化

#### 医療イノベーションの創出

- 歯学の研究水準は高いが技術開発水準、産業技術強化は課題
- 歯科医療機器は輸入超過状態  
(H21年は167億円の赤字)

#### 国際的な医療課題の解決

- グローバルリーダーの養成
- 発展途上国の歯科医療支援
- 世界的な高齢化への対応
- 大規模災害等への対応

### 各大学の特色・強みを活かした機能強化の例

「歯学を取り巻く現状と社会的要請」の3つの柱の色と「機能強化の例」の各文章の色が対応している。

#### 岡山大学

国際社会や超高齢社会で活躍する研究マインドを持つ人材養成、医用材料開発や分子イメージング等の教育研究拠点、医科歯科連携診療

#### 広島大学

アジアに根ざしたグローバル歯科医療人材・研究者育成の推進、医歯工連携研究、放射線災害克服を含む再生医療、多職種連携バイオデンタル教育の確立と推進

#### 九州大学

世界で活躍できる人材養成、口腔組織の再生・再建医療や口腔と全身の健康に関する研究、アジア諸国への手術・遠隔医療支援、発展途上国の人材育成への貢献

#### 長崎大学

離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成、硬組織研究、歯周病研究、歯科東洋医学研究、ケニアでの口腔健康調査をはじめとする国際貢献

#### 鹿児島大学

地域・へき地・高齢者歯科医療に貢献できる人材養成、先天性疾患に対応する包括医療、アジア・アフリカの医療技術指導

#### 新潟大学

課題解決能力等を持った歯科医師養成と国内外の人材養成モデルの構築、口腔のQOL向上を目指した基礎・臨床研究、有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践

#### 北海道大学

国際性・独創性を持った研究者養成、地域の産官学による歯学研究拠点の形成、有病者・障がい者に対する治療等、北海道における高度歯科医療の中核的役割

#### 東北大学

世界をリードする研究者養成、バイオマテリアル・歯学再生医療等の異分野融合研究、災害口腔科学、歯科法医情報学、大規模災害対応及び創造的復興の先導的役割

#### 東京医科歯科大学

国際感覚に優れた歯科医師・歯科医療技術者・研究者養成、歯学融合教育や世界的視野での歯学教育の標準化、医歯工連携による歯科材料開発、難治性歯科疾患やスポーツ歯科診療等の先端的歯科医療推進

#### 大阪大学

生命科学全般で活躍できる研究者養成、先端的基礎研究の成果を再生歯科医療、内科的歯科医療・難治性歯科疾患等の開発・実用化へ発展、独立した附属歯科病院における難治性疾患にかかる先端的医療

#### 徳島大学

多職種協働(栄養・福祉を含む)を担う人材・災害歯科医療人材養成、東南アジアでの人材育成支援、口腔免疫・生体材料・歯の再生等に関する研究、四国の高度歯科医療の中核的役割



## 2. 事業の概要

### 課題解決型高度医療人材養成プログラム

平成27年度予算額:8億円(平成26年度予算額:10億円)

#### 概要

高度な教育力・技術力を有する大学が核となって、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材の養成を推進する。

#### 背景課題

◎健康長寿社会を実現するための疾患克服が課題 ◎人口減少・少子化の進行

医師・歯科医師

#### 高度医療専門人材の不足

・病院基盤部門を担う医療安全・感染制御領域等の専門人材養成と体制充実

#### 社会から求められる多様な医療ニーズの増加

・難治性疾患領域や高難度手術(移植医療等)領域等を担う専門人材養成

#### 高齢化に伴う歯科医療ニーズの変化

・口腔疾患と全身疾患の関わりに関する領域を担う高度な歯科医師の養成

我が国が抱える  
医療現場の諸課題

看護師・薬剤師等のメディカルスタッフ

#### チーム医療の推進

・チーム医療推進のための専門性の強化と役割の拡大に応えるため、学生・医療人の実践能力の強化等

#### 教育と臨床の連携強化

・学生・医療人の実践能力を強化するため、教育と臨床が連携し、卒前・卒後の学生・医療人の教育指導体制の構築等

#### 地域医療連携の推進

・地域医療連携にかかわる業務に精通し、学生・医療者に地域医療連携の視点や実践を教育できる教育指導者の養成等

#### 取組

【取組1】医師・歯科医師を対象とした教育プログラム 14件×40,000千円

横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成

特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成

健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成



【取組2】看護師・薬剤師等を対象とした教育プログラム 12件×20,000千円

対象職種：看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、放射線科士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、歯科衛生士、歯科技工士



卒前・卒後の継続的な教育プログラム開発と教育指導体制の構築

臨床での教育指導者養成と大学教員・教育指導者の人材交流

地域医療にも貢献できるメディカルスタッフの養成

#### 成果

高度医療専門人材の輩出、我が国が抱える医療課題の解決、健康立国・健康長寿社会の実現

# 取組(1) 医師・歯科医師を対象とした教育プログラム

### 背景

**高度医療専門人材の不足**

国立大学病院における感染制御部門等に所属する医師 (部長クラス)の専任・専任・兼任の状況(%)

専任 7.5, 専任 42.5, 兼任 50.0

出典: 国立大学附属病院感染対策協議会(H24)

**社会から求められる多様な医療ニーズの増加**

小児科等の専門医数(人)

小児科: 14,827, 産婦人科: 12,227, 新生児/小児/胎児: 544

出典: 日本専門医評価・認定機構(H24.8)

**医科歯科連携による健康寿命の延伸**

歯の本数と歯科診療費の関連

残っている歯の本数が多いほど歯科診療費が少ない傾向を示す。健康長寿社会実現のためには、正常な口腔機能の維持が重要。

約 2/3

出典: 8020運動に基づく歯と全身の健康に関する実態調査2007 (北海道国民健康保険団体連合会)

◇健康長寿社会を実現するための疾患克服が課題 ◇人口減少・少子化の進行

**課題**

- ・病院基盤部門等を担う医療安全・感染制御領域の専門人材養成と体制充実
- ・災害医療対応能力の強化
- ・臨床研究推進のための「研究デザイン」教育や臨床医学教育を担う専門指導者等の養成

**課題**

- ・難治性疾患領域(臨床病理診断も含む)の診断や治療を担う専門人材養成
- ・高難度手術(移植医療等)領域を担う専門人材養成
- ・小児周産期領域の集学的医療体制の更なる強化

**課題**

- ・歯科疾患と全身疾患の関係に関する歯学教育の促進等

**取組**

横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成

**取組**

特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成

**取組**

健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成

**成果**

高度医療専門人材の輩出。我が国が抱える医療課題の解決。健康立国・健康長寿社会への実現

## ③健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成

**背景**

●急速な高齢化に対応するためには健康長寿社会の実現(健康寿命の延伸)が喫緊の課題

**平均寿命と健康寿命の差**

男性: 平均寿命 79.55, 健康寿命 70.42, 差 9.13年

女性: 平均寿命 86.30, 健康寿命 73.62, 差 12.68年

出典: 「平成22年完全寿命表」, 厚生労働省「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」(厚生労働省作成)

**介護給付費の将来推計**

H24: 8.4, H27: 10.5, H32: 14.9, H37: 19.8

出典: 国土交通省「厚生労働省推計」

●健康長寿社会を実現するためには、

- ✓生涯を通して正常な口腔機能の維持
- ✓口腔疾患と全身疾患の関わりに関する領域の高度化
- ✓超高齢社会に対応した歯科医療等への対応が必要

**対応**

●国公立大学を通じた歯学部間の連携により、健康長寿社会の実現に貢献する優れた歯科医療人養成モデルを構築し、全国に普及

※各大学の自由な発想に基づき、課題解決に向けた事業計画を立案  
※最も優れた事業計画を選定し支援

※各連携拠点における取組の成果を全国へ普及 [イメージ図]

**[取組例]**

通常の歯学教育 + 特別な教育プログラム

歯学部 → 初期研修 → 後期研修(※) → 大学院

例: 全身疾患との関わりに関する教育の場合

- 全身疾患に関する導入教育等
- 口腔疾患と全身疾患の関わりに関する専門的な教育等

連携: 医学部、附属病院、附属施設、地方自治体、地域医療機関、民間企業等

**成果**

- 大学における歯学教育改革の推進
- 国民の期待に応える優れた歯科医師等の養成

**効果**

- 健康長寿社会の実現



## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定結果

【取組1：医師・歯科医師を対象とした人材養成】

【1－（3）：健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成】 申請件数：3件、選定件数2件

| No. | 区分 | 申請担当大学名  | 連携大学名   | 事業名                |
|-----|----|----------|---|--------------------|
| 1   | 国立 | 東京医科歯科大学 | 東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学                                 | 健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム |
| 2   | 国立 | 岡山大学     | 北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、昭和大学、日本大学、兵庫医科大学 | 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革  |

14

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム取組拠点【医師・歯科医師】

【申請件数：99件・選定件数：14件】



15

### 3. 事業実施大学への期待

16

課題解決型高度医療人材養成プログラム 取組拠点の選定について (1)

#### 「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」所見

平成26年7月23日

このたび、本委員会は「課題解決型高度医療人材養成プログラム」について、本年6月に申請のあった235件の事業のうち、事業の構想(事業の全体構想、教育プログラム・コースの優秀性)及び事業の実現可能性(事業の運営体制、事業継続・普及に関する構想)等について審査を行い、特に優れた26件(医師・歯科医師を対象とした取組14件、看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした取組12件)の取組を選定しました。

選定に当たって、本委員会が特に重視した点は、大学・大学病院が、これからの時代に  
応じた医療人材の養成に取り組む事業であるかという点です。大学・大学病院の役割は、  
これまでの高度な医療人材の養成とともに、地域の医療機関等と緊密な連携を図りなが  
ら、超高齢社会に対応できる新たな教育・実践の取組を展開していくことが重要であると  
考えています。

これは、医療関係職種の養成課程を置く全ての大学に共通する今後の課題ですので、  
各大学においては、自大学の教育理念・ミッションや今後の人材育成のあるべき姿に  
ついて、今一度学内で議論していただきたいと思います。

17



- 上記を踏まえた上で、選定された各大学に対して、以下のことを要望します。
- ① 事業期間中は、**PDCAサイクルによる工程管理**を行った上で、全国の模範となるよう**体系的な教育プログラムを展開**すること。その際、履修する学生や医療従事者等の**キャリアパス形成につながる取組や体制を構築**すること。
  - ② 事業の実施に当たっては、**学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制**で行うこと。また、**地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築**すること。
  - ③ 事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、**具体的な事業継続の方針・考え方**について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、**選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信**すること。
- 今回、優れた事業や特色ある事業でありながら、残念ながら選定にいたらなかった事業が多数ありました。選定されなかった各大学においては、本委員会から、申請いただいた事業に対する所見をお伝えしますので参考にさせていただくとともに、今後も地域・社会からの高いニーズに応えるべく、本事業の趣旨も生かした特色ある人材育成に取り組んでいただくことを強く期待しています

18

#### 選定時における推進委員会からの主なコメント【岡山大学】

○：優れた点等、●：充実を要する点等

- 超高齢社会の日本で、今後、全身や在宅介護、終末期の口腔ケアは更に重要性を増すため、課題の必要性は評価できる。
- 特に、これまで不足していた死生学の教育に着目し、かつ関連する研究施設等からの人材を効果的に配置したカリキュラムの発想は優れている。
- 医学部口腔外科学講座など、歯学部を持たずに周術期口腔管理を行ってきた大学と連携して、新しい歯科教育の仕組みを取り入れている点は、高く評価できる。
- 新たに構築する教育プログラムについては単位を設定しており、カリキュラム中における位置づけが確立しているは評価できる。
- 連携校が多いため、机上の空論にならないよう、緊密な連携体制を構築する必要がある。
- 備品の整備に時間を要する計画になっているが、連携大学における事業の実効性を確保するために、可能な限り速やかな整備に努めることが求められる。
- 座学やDVD、e-learningによる学修が多いが、終末期や要介護高齢者との接触を含む臨床体験が非常になることから、実習の充実化が必要。
- 成果を確実に上げるために、より明確な目標及び指標を設定することが望ましい。

19



## 4. 平成27年度予算（案）

### （高等教育局医学教育課関係）

20

## 高度医療人材の養成と大学病院の機能強化

平成27年度予定額: 44億円(54億円)

注: ( )の数値は、26年度予算額

### 【先進的医療イノベーション人材養成事業】

我が国が抱える様々な医療課題を解決し、国民に提供する医療水準を向上させるため、大学における研究マインドを持った次世代医療人材の養成拠点の形成を促進する。

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| ○未来医療研究人材養成拠点形成事業     | 16億円(20億円) |
| ○がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン | 16億円(19億円) |

### 【大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業】

医療の高度化等に対応するため、優れた高度専門医療人(医師・歯科医師・看護師・薬剤師等)を養成するための教育体制の充実を図る。

- |                                 |              |
|---------------------------------|--------------|
| ○課題解決型高度医療人材養成プログラム             | 8億円(10億円)    |
| ○基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成 | 2億円(3億円)     |
| ○専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業            | 0.1億円(0.3億円) |

### 【大学における医療人養成の在り方に関する調査研究】

我が国における今後の社会・経済構造の変化に伴う保健医療分野のニーズに対応するため、大学及び大学院における医療人養成の在り方について検討するための調査・研究を実施する。

1億円(新規)

※26年度予算額には、26年度限りで終了する事業「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成」等の予算額を含む。

※単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

21





文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム  
(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成) 選定事業

## 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

# キックオフシンポジウム

*Kick off Symposium*